

書名

幸せを届けるボランティア  
不幸を招くボランティア

著者名

田中優／著

出版社

河出書房新社

出版年

2015



ポイント  
お薦め

ボランティアって誰かに言われてやるもの？そもそもボランティア活動ってなんだろう？そんな疑問に答えた1冊です。ボランティア活動は実際のところどうなっているのか、きちんと相手に届いているのかと丁寧に書かれています。

ボランティアを始めたい、興味があるけどどうしたらいいかわからない…そんな人にぜひ読んでほしい1冊です。

ポイント  
お薦め

ボランティアをしてみたい気持ちはあるけれど、どうしたら良いかわからないと思っているみなさんに、「こんな方法もあるのか。大人じゃなくてもおカネと時間がなくても、きっかけがあればきっと今の自分にも始めることができるはず。」と背中を押してもらえる本です。

\*こちらの資料は、複数の図書館よりお薦めされています。

書名

16歳の語り部

著者名

雁部那由多/著 津田穂乃果/著  
相澤朱音/著 佐藤敏郎/監修

出版社

ポプラ社

出版年

2016



ポイント  
お薦め

東日本大震災の時、小学校5年生だった3人が語る当時の記憶。彼らが語り部として伝える事とは…。ボランティアには、「伝承」という活動もある。自分が体験した事を後世に語り継ぐのも、非常に重要な役割である。ぜひ、彼らの辛い体験を未来に繋ごうという思いを受け取って欲しい。

書名

遠くの人と手をつなぐ  
SOSの届け方

著者名

千葉望/著

出版社

理論社

出版年

2023



ポイント  
お薦め

困っている子たちと手をつなぎたくて活動している大人がこんなにいること、たくさんの方が伸ばされる手を待っていることを、実際のボランティア現場を紹介しながら教えてくれます。「自己責任」という言葉が流布する現代で、誰にも頼れない子たちの支えになる1冊です。

書名

ボランティアをやりたい！  
高校生ボランティア・アワードに集まれ

著者名

さだまさし・風に立つライオン基金/編

出版社

岩波書店

出版年

2019



ポイント  
お薦め

今、自分が学んでいる事や興味を持って取り組んでいる事が、誰かの役に立つと考えた事がありますか？自分が持っている知識を活かす機会としてボランティア活動があります。ぜひ、全国のボランティアに励む高校生たちの活動を読んでみてください。

ポイント  
お薦め

東日本大震災をきっかけにさだまさしを中心に創立された「風に立つライオン基金」の活動を若い世代にも引き継いでもらいたい思いから高校生ボランティア・アワードが立ち上がりました。「誰かの役に立つ活動を」という同じ志を持った高校生が地域の枠を超えて知り合いさまざまな形で刺激しあいながら活動している明るく元気な力強い姿を参加校ごとに紹介しています。

ポイント  
お薦め

「高校生ボランティア・アワード2019」で発表されたボランティア活動を紹介する本です。校内の古民家を活用した、花や野菜の栽培体験ができる認知症カフェや、地元の伝統野菜を使ったカレーやジェラートなどの商品開発による地域おこしなど、33校の活動が書かれています。「誰かの役に立つ活動を」目指す高校生たちの、課題解決に向けたさまざまなアイデアを知ることができます。

\*こちらの資料は、複数の図書館よりお薦めされています。

書名

マレットファン  
夢のたねまき

著者名

村中李衣 / 著

出版社

新日本出版社

出版年

2016



ポイント  
お薦め

スマトラ島沖地震の被災地タイで、図書館を作る活動をしていた松尾久美さんは、2人の仲間と教育支援NGOを立ち上げ、子どもたちに絵本を届ける活動や、大人向けの研修会や交流会などの活動を行っています。タイの人々が置かれている現状を知り、どのように考えて活動してきたのでしょうか。ボランティアや国際協力に興味のある人にお勧めです。

書名

マンガでわかるちょこっと社会貢献

著者名

上村彰子 / 著 深山雪男 / マンガ  
嵯峨正馬 / 監修

出版社

小学館

出版年

2023



ポイント  
お薦め

「プロボノ」とは、職業上のスキルや経験を活かして取り組む社会貢献(ボランティア)活動のことである。そう聞くと、働かないとできない様にも捉えられるが、そんなことはない。学生のプロボノもいる。今、懸命に取り組んでいる一人一人の「経験」という学びが、この先の人生にも、きっと役立つ糧となる。

書名

夢中になれる小児病棟  
子どもとアーティストが出会ったら

著者名

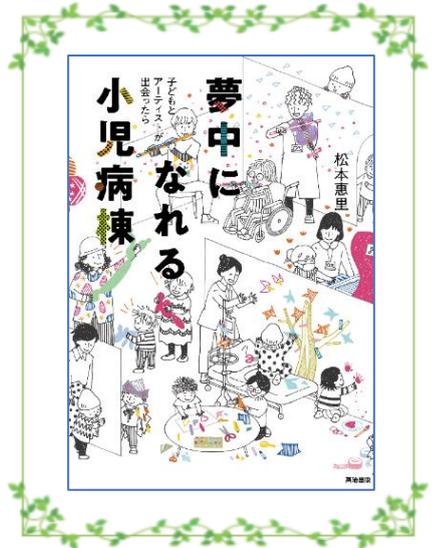
松本恵利／著

出版社

英治出版

出版年

2021



ポイント  
お薦め

全国には、病気のために長期入院する子どもたちが何万人もいる。病院の院内学級で教師をしていた著者は、子どもたちが病気から離れ、自分らしく楽しめる時間を作るため、アートによって支援する団体を立ち上げた。そして、絵画や音楽、読み聞かせやマジックなどの活動を実施している。自分にも何かできるかもしれない。さまざまなボランティアを知るきっかけ作りになってほしい。